

## 島根半島四十二浦巡り再発見研究会地域再生大賞優秀賞受賞

酒井 董美<sup>ただよし</sup>

巡礼帖の表紙

地方新聞46紙と共同通信社が、地域活性化に取り組む令和3年度の第12回地域再生大賞優秀賞に、筆者の所属する島根半島四十二浦巡り再発見研究会が選ばれたと本日の『山陰中央新報』3面に報道されている。

この賞には各都道府県からの応募があり、昨年10月中旬、第一次選考を通過した50団体から選ばれたものである。報道を細かく読んでみると、大賞は山梨県韮崎市の河原部社が、中高生に家庭でも学校でもない第三の居場所を提供し、若いスタッフがイベントや職場体験を通じて生徒らの夢を実現、地域への愛着を育むことを理由に選ばれていた。その他、準大賞、ブロンズ賞、特別賞、優秀賞など、推薦された団体は何らかの賞に輝いている。

筆者たちの島根半島四十二浦巡りの信仰習俗は、江戸時代には見られ、島根半島西端、出雲大社から東端の美保神社まで42浦で汐汲みをして神社を巡り、一畑薬師で汐水を奉納し結願するが、それによって亡き人を偲び、心身の清浄を求め、家族の健康などを祈願するという習俗である。最古の資料として、松江市美保関町雲津浦の諏訪神社拜殿に宝永7年(1710)に奉納された「雲州四十二浦之詠歌」の扁額がある。

この習俗を現代に甦らせようと平成22年3月に発足したのが、島根半島四十二浦巡り再発見研究会(事務局長・木幡育夫氏)であり、会員100名を擁するまでになった。

元々は『出雲国風土記』研究の権威で、関係地を巡り、この風習に着眼した八王子市の関和彦氏(昭和21年〜平成31年・享年73歳)の呼びかけに賛同して結成された。

本会では、インターネット上にホームページを立ち上げて活動を紹介しながら、小泉八雲に関する講演会(出雲市大社町、隠岐の島町、西ノ島町、松江市など4回)を開いたり、刊行物としては、機関誌『島根半島四十二浦巡り』発行の他、B5判の『島根半島四十二浦巡りの旅』、『小泉八雲の足跡探訪・松江出雲隠岐諸島の旅』や『島根半島四十二浦巡り巡礼帖』の冊子と毎年関連写真を網羅した月別カレンダーを発行している。また各神社駐車場に案内看板の設置やトイレに注意書きを提示したり、会員を中心に関係地のバスツアーを実施したりと、精力的な活動が続いている。

これ以外に特筆すべきものとして、昨年4月3日に広く募金を募り、一畑薬師庭園に「関和彦先生顕彰碑」を建立し除幕式を行ったことと、今年4月2日に同庭園で「島根半島四十二浦巡り再発見記念碑」建立除幕式を行うことであろう。

本会のこうした活動が評価され、このほど優秀賞の受賞となったと思われる。筆者は島根県下の多くの団体がある中で、山陰中央新報社という優れたマスコミによって本会が推薦されたことに誇りを感じている。そして、関和彦氏の考えに賛同した人たちによって設立された本会は、名コンビというべき木幡育夫事務局長の献身的な支えで、これからも大きく発展して行くことを信じているのである。(元島根大学法文学部教授)